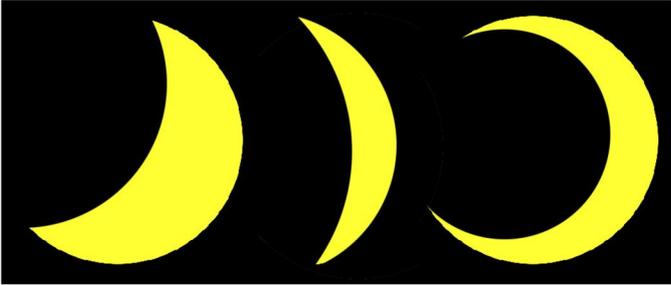


## 「二日月の美」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

「三日月というのは、どんな形でしょう」・・・小学生の子どもたちや大学生に聞くと、大抵は下の図のようなイメージを抱くことが多い。



いずれも「三日月」とは言えない。というよりも、通常の月の形状としては、すべてあり得ないものばかりである。一番右「クールミントガムの月」と呼ばれ、論外である。実際の三日月の形状は下の写真のようなものである。「鎌のように細い」と形容されるが、実際は「鎌よりも細い」のが三日月である。

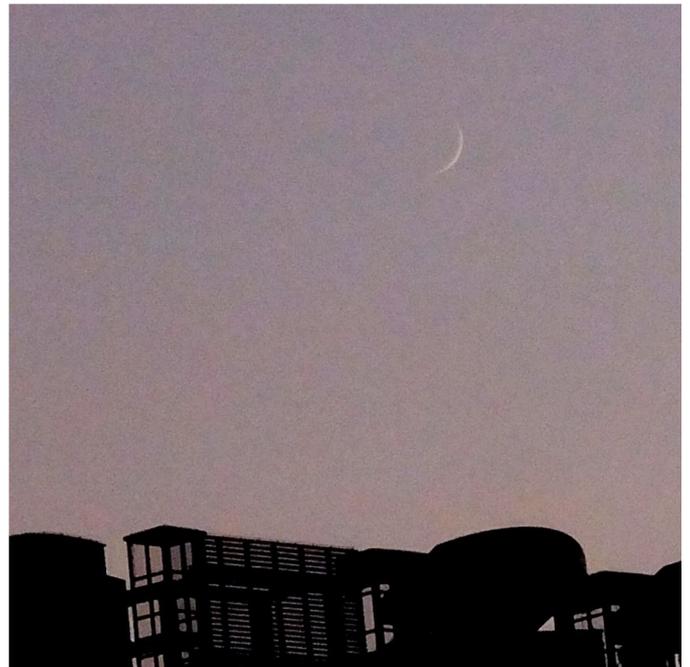


「三日月」 奈良・法隆寺北町で撮影 C.Tanaka

三日月は、「新月の翌日から数えておよそ三日目の月」という意味である。観測者からの見かけの位置が太陽と近いので、夕方の西の空に見えて「太陽を追いかけるように沈む」という特徴がある。当然「二日月」という月も存在する。二日月は、三日月よりも更に細く、しかも太陽に近いので、観望が非常に難しい。



上の写真は、今年の8月5日夕暮れの西の空である。ごく薄い細い月が写っている。これが二日月である。位相(月を円盤と仮定した場合の光っている面積の割合)はわずか6.8%、太陽との離角も $25^\circ$ 程度で、日没後ほんの30分程度しか観望できない。



「二日月」は、はかなく、そして実に美しい。子どもたちと一緒に見たい月だ。実は「一日月」というものもあるが、これは国内で観望するのはほぼ絶望的で、人工物も人工光も全くない、砂漠なら見えるという。